

日本YMCA同盟

THE
YMCA

The Young Men's Christian Association News



No.824 2023

2023年3月1日発行（毎月1日発行）
1947年10月27日 第三種郵便物認可
本体価格45円（外税）（送料63円）
発行／公益財団法人 日本YMCA同盟
〒160-0003 東京都新宿区四谷本塩町2番11号
Tel 03-5367-6640 Fax 03-5367-6641
URL : <https://www.ymcajapan.org/>
発行人／田口 努 編集人／横山 由利亜



OPINION

軍事侵攻から一年 ウクライナ避難者と共に

YMCAウクライナ避難者支援プロジェクト責任者

日本YMCA同盟 執行理事 横山 由利亜

「私の人生は2022年2月24日の朝、一変してしまった。」

「まさか、戦争になるとは、そしてこんなに長引くとは思わなかった。」

ウクライナから日本に避難する人たち——その多くが母子、そして高齢者——の悲痛な声と共に、一年が経ちました。

戦争は普通の人びとの「平穏な生活」を突然“寸断”し、次に“別離”を迫ります。ウクライナでは成人男性は特別な事情がない限り国を出ることができないので、多くの避難者が夫や父親、親戚、友人と十分な心の準備もないまま離ればなれとなりました。毎日のように連絡を取り合っていますが、戦況は日々悪化し、電力が不安定になり連絡も取りづらくなっています。避難して来た子どもたちの多くは日本の学校に通いながら、オンラインでウクライナの小学校・中学校・高校の授業も受け続けています。クラスメイトの半数がウクライナに残り、半数は世界各国に離散。授業がサイレンや停電で頻繁に中断。クラスメイトや先生が戦争で亡くなる…。子どもたちは、自分の身に起こっていることを幼いながらも我慢よく受け止め、年齢よりずっと大人びた表情を見せたかと思ったら、突然、子どもがえりやヒステリーを起こしたりします。特に深刻なのは10代の多感な子どもたちです。殻に引きこもったり、極端な“愛国心”に走ったり、本来なら学校に遊びに、スポーツにと満喫する成長期の子どもたちが、「子どもらしくいることが奪われている」ことに胸が痛みます。



戦争がもたらす悲劇、あるいは戦争を引き起こす本質に“分断”があると考えます。ウクライナ人には、ロシア語で教育を受け家庭生活を送って来た人、近い親戚や友人がロシアにいる人たちが大勢います。戦争前から日本で暮らしていたウクライナ人やロシア人は助け合って日本社会で生きて来ました。それがいまでは戦争によって互いに敵・味方のレッテルを貼り、疑心暗鬼や不信感の連鎖を生み出しています。日本に無事に避難できた人たちは、ウクライナに対して「自分たちだけが安全な場所にいる」ことや「戦争に協力できない」ことへ罪悪感（ギルティ・シンドローム）を抱え、苦しんでいます。

YMCAは、全国の皆さんから寄せられた尊い募金によって、これまでに163人の緊急来日避難を支援し、来日後は住居手配や保育園探しから日本語教育や就業など新生活を支援、これまでにおよそ900人の避難者のサポートをするに至っています。つらい一年でしたが、それでも時間の経過とともに、子どもたちが「にほんの、がっこう、きゅうしょく、ともだちさいこう!」と日本語で話してくれたり、「近所に住む人からもらった」とみかんや年賀状、古い雛人形を得意げに見せてくれたり、「YMCAとつながれたからキャリアを生かした仕事が見つかった」と支援者冥利につける場面もちろん多くあります。私はその度に、遠く1万キロ離れた日本で「先の見えないなかでの人生のやり直し」を迫られた人たちにとって、生きる希望や力になっているのは、決して国家や政治の大義、軍事の増強ではなく、日常の中の何気ない人の優しさや、共に考え、泣き、笑い、歩んでくれる「(市井) 普通の人びと」の存在であることを確信するのです。

YMCAは、これからも困難な状況に置かれた一人一人の人生に伴走し、「ポジティブネット」の力によって「平和」を創造する地道な働きを続けて行きます。引き続き、ご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

引き続き募金へのご協力をお願いします。

- ゆうちょ銀行 振替口座（振替貯金）
00190-6-464236 日本YMCA同盟地域国際募金口
- クレジットカード・銀行振込は下記サイトから
<https://www.ymcajapan.org/ukraine-donation/>



外国人が暮らしやすい 共生社会めざして 各地で協働事業スタート

年々増加傾向にある在留外国人へ日本語学習機会の充実を図ろうと、各地のYMCAではさまざまな新規プログラムを開始しています。文化庁による「外国人材の受入れ・共生のための地域日本語教育推進事業」も後押しとなり、地域の行政や他団体とも協働しながら、誰もが暮らしやすい多文化共生社会に向けて取り組んでいます。



日本のお弁当作りを体験（和歌山YMCA）

滋賀YMCA 県の「日本語教育推進事業」を受託

滋賀YMCAでは昨年9月から、滋賀県による「地域日本語教育推進事業」を受託運営しています。滋賀県内には現在3万人以上の外国籍の方が暮らしていますが、日本語学校など教育機関が少なくボランティアの日本語教室に頼ってきました。この度文化庁の助成を受けて県として日本語教育支援を行うこととなり、滋賀YMCAがこの事業を受託することとなりました。滋賀YMCAでは4月からの教室開講に向け、教材やカリキュラムの作成など開講準備を進めているほか、日本語教育支援のボランティアの養成や、企業向けの啓発セミナーを開催するなど、日本語力の向上だけでなく生活の質の向上も目指して取り組みを始めています。

滋賀YMCA総理事 久保田 展史

大阪YMCA 外国にルーツのある高校生を支援

大阪YMCA日本語教育センターは2022年度から、大阪府の「日本語教育学校支援事業（通称：ピアにほんご）」を受託し、大阪府下の府立高校に在籍する外国にルーツのある生徒に対し、学校生活や学習を母語で支援する「教育サポーター」を派遣するなどの支援をしています。教育サポーターには約200人が登録中。26言語に対応できる体制で、授業や保護者懇談会の通訳、放課後の教科学習や日本語学習のサポート、学校生活の相談など、一人ひとりの生徒に合わせた活動を行っています。

大阪YMCA 立山 英展

和歌山YMCA 外国人の孤立防ぐネットワークを

大都市圏と異なり外国人が散住している和歌山県では、外国人への支援や情報が行き届きにくいことが課題となっています。そこで和歌山YMCA国際福祉専門学校では昨夏から、「和歌山県国際交流事業補助事業」として10回にわたる無料講座を開催。外国人の困りごとを理解する講座や、住民同士で支援するための知識の普及のほか、外国人の方を対象に地元の行事の紹介や料理体験などを行って孤立化を防ぎ、地元の身近な支援者ネットワークの拡大に努めています。

和歌山YMCA 西山 友理

都心のオフィスビル内で 子ども水泳教室オープン

東京YMCA
ウエルネスガーデン品川御殿山



品川駅から徒歩10分。高層マンションやホテルと隣接するオフィスビルの階下に4月、「東京YMCAウエルネスガーデン品川御殿山」がオープンします。これは、LOCON株式会社による総合スポーツ施設内に開設する子ども水泳教室で、すでに100人ほどの子どもたちが登録して開講を待っています。

少子化とはいえ、この地区は若い共働き世帯が多く、教育への関心も高いため、特に土日には習い事の希望者が集中して待機者が出ています。中でも子どもの水泳教室は人気が高いため、子どもの指導経験が豊富なYMCAが運営を担うこととなりました。

昨今はコロナによる在宅勤務の普及に伴って、自宅付近で手軽に通えるジムが増えるなど、スポーツ施設の多様化が進んでいます。東京YMCAはこれまで、自前の施設内でスポーツ教室を運営してきましたが、ニーズの変化に合わせて、さまざまに形を変えながらウエルネスの促進に努めています。

東京YMCA 澤村 奈緒

2022年度 日本YMCAユースボランティア認証者

今年度は19YMCAから330人がYMCAの担い手として仲間に加わりました。

1994年から認証制度開始。これまでの認証者総数は18,317名

〈YMCAボランティアの定義〉YMCAのボランティアとは、日本YMCA基本原則に示されている使命の実現のために、YMCAの行うさまざまな活動や組織の運営、また、YMCAが他団体と協働して行う諸活動に①自らの自由な意志によって（自発性）②主体的に、責任をもって参加し（主体性、責任性）③金銭や名誉などの報いを目的とせず（無償性）④人々や社会のために働き（利他性、社会性）⑤人々と痛みや喜びを分かち合い（相互性）⑥継続的に（継続性）喜んで自らの時間や労力、知識や能力、金銭などを提供する者をいう。

北海道YMCA 小林 理緒 上窪 いちこ 山岸 美友 中野 将吾 仙台YMCA 田中 友陽 相澤 伸治 三島 大輝 大平 智也 菅井 優希 菅原 佳織 渡辺 優 木皿 怜 葛西 壮汰 貞光 航佑 藤岡 真沙斗 安川 ちあき とちぎYMCA 立川 祐紀乃 高橋 莉亜奈 酒井 琉寿 五月女 純華 菊地 花菜 須藤 さくら 高橋 華桜 佐藤 深実 藤田 ちひろ 渡辺 航平 宮内 翔	浅川 さくら 千葉YMCA 渡辺 実喜 齋藤 優菜 林 春菜 角田 風花 西山 翼 山田 翼 蛇澤 瑞 岸田 結葉 杉浦 壮真 茅嶋 智史 村田 暖乃 堂前 望果 大和田 健斗 北島 花菜 岸原 光里 内藤 蓮 埼玉YMCA 林 美有 高野 捺芽 小椋 捺未 廣岡 裕也 中村 涼人 増田 愛梨 新井 隼斗 半田 理香子 茂木 董 阿部 真琴 横田 いずみ 藤木 萌人	青柳 千洋 東京YMCA 野口 玲奈 和田 佳凜 大島 夕果 奥 美月 高橋 七菜 酒井 彩也子 藤野 美緒 山中 綾乃 山谷 みのり 磯部 匡基 岡野 弘武 信田 詩織 三木 めぐみ 安岡 駿也 小宮 萌々子 篠原 真奈 渡邊 紫乃 関根 万葉 山本 花奈 久保田 智梨 今村 将健 姫井 野乃加 高田 奈々 蓮沼 孝明 大瀧 ほの香 伊藤 桜子 先山 智 上田 晴愉	高橋 治希 横浜YMCA 北村 遥夏 鈴木 咲 成田 隆史郎 福田 華菜 本山 美樹 横山 羽奈 早坂 拓大 長谷川 祐介 小島 柚香 小鷹 奈宝 関口 直樹 小林 葵 芦川 真美 白井 大成 片山 創太 松野 亜美 篠田 佳明 遠藤 果南 樽川 輝 北川 貴惟 浅沼 和音 山田 和優 田邊 葉瑠萌 松尾 梨沙 皆川 華穂 西田 伊織 高田 帆夏 井上 豪	横山 怜央 荻野 琉生 斎藤 那由太 細沼 誓良 山口 琢磨 坂尻 大輝 ペリー 巴菜 塚原 由佳 中村 柚子 青木 那奈 北本 真悠 松本 愛李 畑中 佑太 巖谷 龍一 中山 勇輝 今村 響 武久 善樹 米田 拓真 笠原 凜 城戸 宏輔 加藤 鈴葉 山田 愛澄美 高山 夏葵 八津川 幸哉 山崎 舞子 滋賀YMCA 矢野 愛実 崎岡 明日哉 松藤 圭祐 塩田 雅幸	比嘉 優子 大石 元 東出 光貴 廣川 美織 菊地 明日香 藤井 美帆 富山YMCA 中西 陽菜 本保 優羽 吉本 利弥 小川 哲平 小平 華萌 春日 恵介 中村 天音 今村 響 秋山 朋葉 米田 拓真 笠原 凜 城戸 宏輔 井澤 愛美 山田 愛澄美 高山 夏葵 八津川 幸哉 山崎 舞子 滋賀YMCA 矢野 愛実 崎岡 明日哉 松藤 圭祐 塩田 雅幸	小嶋 友介 勝村 和佳奈 庄司 琳香 田村 泰葉 井上 楓太 乙武 百香 島川 咲彩 京都YMCA 尾西 真央 山口 あんこ 池田 さくら 角樋 彩 中野 綾菜 斉藤 愛佳 竹原 杏奈 森川 結彩 若江 早紀 小泉 愛海 奈良YMCA 栗田 佳奈 日吉 陽己 里田 裕奈 南部 安紀 東海 麻奈 北坂 晴奈 堀内 ひなた 入江 琉香 岡崎 遼河 吉本 祐樹 平居 莉那	上地 健介 花田 陸斗 片山 裕人 岡内 香華 大阪YMCA 澤田 佳奈 八木 遥希 綿貫 葵 久井 岬生 中島 優佳 長尾 沙耶 仲野 由惟 中川 菜歩 上田 奏風 赤澤 夏実 荒柴 亜衣 林 茉那 中山 愛菜 石丸 真帆 木屋 結佳 山川 芽衣菜 福木 実 下岡 歩生 下藤 聖也 北尾 千夏 横山 愛華 三好 紗矢 小山 鈴音 徳山 梨琴 神保 真理恵	新田 愛歩 橋本 茉琴 細見 茉世 中西 碧 神戸YMCA 石崎 智紀 栗原 一尋 佐々木 朝花 佐藤 匠 重塚 咲陽 高橋 優莉梨 田中 梨音 南部 梨紗 西川 陽紀 原田 花夏 富士田 健太郎 堀田 晋一 森寺 俊樹 柳田 紗良 山内 晴生 大和 廣紀 湯木 瑠子 高瀬 麻衣 松田 彩夏 藤花 彩音 野地 美優 森田 有菜 岡本 姿矢 白井 あやの 山内 瑠奈	大西 茜璃 山下 結衣 姫路YMCA 磯野 帆花 一色 昌喜 熊本 千夏 満田 耕作 YMCAせとうち 武林 亜美 上田 歩未 木村 陽菜 光森 愛菜 谷川 琴美 古橋 由紀乃 金谷 莉瑚 田邊 香帆 岡部 菜里 内野 叶絵 菅岡 璃奈 種池 咲乃 大和 廣紀 尾川 菜奈子 溝尾 佐和 吉村 豪太郎 河原 小百合 小野原 実希 西山 瑞紀 前田 羽叶 体岡 天音 戸川 拓也	広島YMCA 岡茂 夏奈 波多野 大輔 玉置 力矢 石田 弥生 井上 瑠南 服部 唯音 山路 はるか 福岡YMCA 西川 花音 森野 明日香 八尋 愛菜 江口 紗弥 武富 佑佳 下迫 菜乃佳 原 彩香 山本 麻由 兼尾 孝規 小森 楓子 久野 鈴 平野 由季 藤井 千夏 北村 佳苗 手島 優 大森 麗央 神近 瑞穂 熊本YMCA 熊野 宗一郎 新里 空飛 田代 真優	中原 鳳紀 浅海 公也 坂口 董鷹 佐藤 愛美 甲斐 日向葵 須山 勝太 城 瑛史 箕島 勇希 緒方 玲奈 押川 日菜香 大塚 可南子 吉田 美紅 杉本 あかり 松田 央 江藤 凜 坂田 美梨 高木 琉平 志岐 優風 野尻 光
--	--	--	--	--	--	---	--	--	---	---	---